

R4年産大麦情報 第1号

令和3年9月28日
白山石川営農推進協議会
石川県農業共済組合
松任市農業協同組合

大麦栽培スタートまでの3大ポイント

目標単収：500kg/10a

大麦はスタートダッシュが重要!!
苗立ちと初期生育の確保に努め、
品質向上と増収を目指しましょう!

麦は湿害・滞水を嫌います。
排水の徹底、乾きやすいほ場づくりに
努めましょう。

- ① 湿害回避・排水対策
- ② pH 矯正と適正な施肥
- ③ 適切な播種作業・・・播種適期は10月中旬

圃場の準備

排水性を高めることで、碎土率が向上し、
出芽・苗立ちや除草剤の効果が高まります。

● 排水対策の徹底

・ 額縁排水溝の設置

稲刈りの合間をみて、晴れが続いている間に設置しましょう。
土壌の水分がぬける乾きやすいほ場を作りましょう。

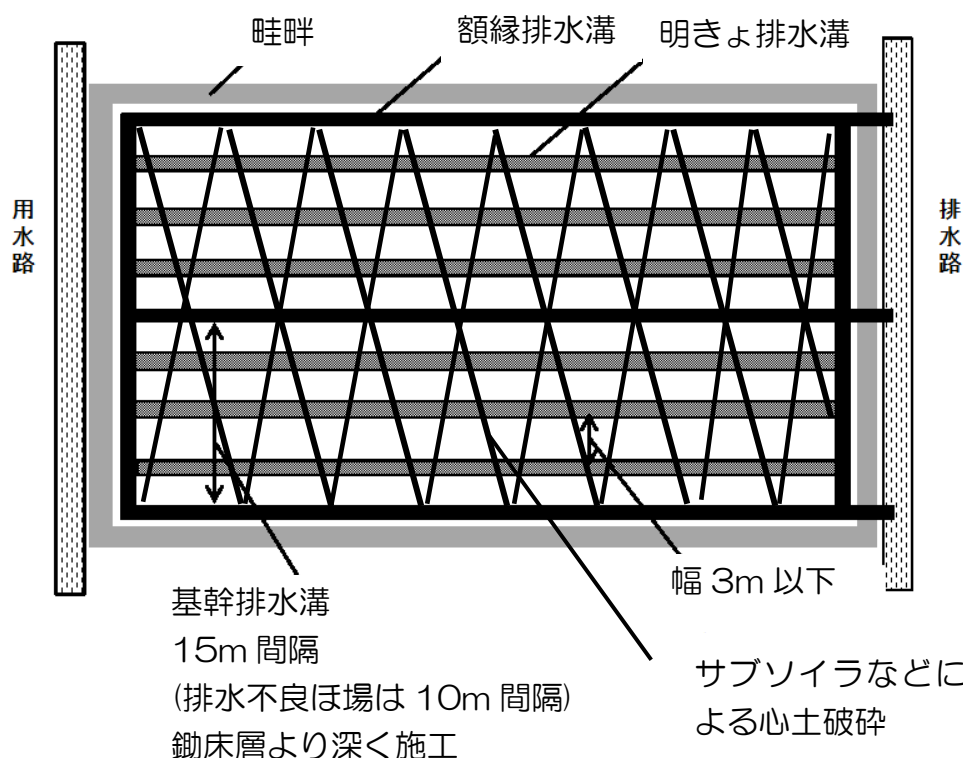
周辺の水田や用水からの漏水による湿害を防止するため、額縁排水溝を設置し、圃場を乾かし、碎土率を高める。

・ 明きよの設置

圃場内は、縦方向に数本（3m～5m間隔）、排水溝を入れて、額縁排水溝に連結させ、排水を良くする。（排水の悪い圃場では3m以下が望ましい）

・ 暗きよ（サブソイラ）の実施

圃場内に水が溜まりにくくするため、サブソイラによる心土破碎を行う。



幅3m以内の排水溝の設置（は種時）



播種・施肥

トレンチャーによる額縁排水溝の設置

● 土壤改良資材の散布

大麦は中性（pH6～6.5）の土壌が適するので、耕起前に「粒状苦土石灰」、
「BB転作エース」、「カキ鉄エース」のいずれかを施用し、大麦に適した土壌とする。
※参考：令和2年JA松任管内 pHの平均値5.7

項目	肥料名	施用時期	施用量(kg/10a)
pH 矯正	粒状苦土石灰、BB転作エース、カキ鉄エース のいずれか	耕起前	100

● 種子消毒・・・対象病害：裸黒穂病

薬剤名	使用量	使用時期	使用回数
ベンレートTコート	乾燥種子量の0.5%粉衣 (7kg 当たり35g)	は種前	1回

● 播種時期と播種量

播種時期：10月10～20日

※但し、播種作業は土壌条件を優先すること。

播種量：7kg/10a

※適期に遅れる場合は1kg程度増やすこと。

播種方法	条間	播種深さ	播種量	畦幅
条播	25～30cm	3cm	7kg/10a	3～5m (水はけの悪い圃場は3m以下)

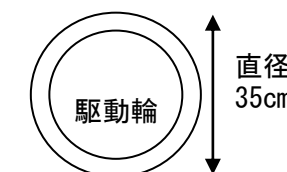
※ 播種前の耕起作業

碎土率が劣ると出芽・苗立ちや除草効果が低下するので、**トラクターは低速走行・ロータリー回転数を上げて作業すること。**

※ 播種機（ドリル播種）の播種量の調整

播種量	条間	1m当たりの種子繰り出し量
7kg/10a	30cm	2.1g
	28cm	2.0g
	26cm	1.8g

※種子量2.1gは、約60粒となります。



直径：35cmの場合
0.35 × 3.14 × 5 回転 = 5.50m
落下種子量 ÷ 5.50m = 1m 当たり種子

- ・ 播種機を少し持ち上げ、落下部に皿などをあてて駆動輪を5回程度、回転させる。
- ・ 駆動輪の直径を測り、円周率（3.14）と回転させた数をかけあわせて駆動距離を算出する。
- ・ 落下した種子量を、駆動距離で割れば、1m当たりの播種量が求められる。
- ・ 作業時は駆動輪のスリップ等による誤差があるので、種子の消費量を見て修正する。

裏面もご覧ください

●基肥（基肥一発肥料体系）

肥料名	施用時期	施用量	備考
BB大麦一発N35 (35-5-4)	播種時	40kg/10a (N:14kg/10a)	地力の低い圃場での増肥は、 43kg/10a (N:15kg/10a) を 上限とする。

除草剤散布

剤型	薬剤名	使用時期	使用量 (10a当たり)	希釈 水量	対象雑草
粒	トレファノサイド 粒剤2.5	播種後発芽前 播種後から出芽 前までの間 (約1週間) に必ず散布を 行う。	4~5 kg	—	一年生雑草 (77°分科等は除く) 一年生イネ科雑草 (雑草発生前)
液	トレファノサイド乳剤		200~300 ml	100 ㍺	
粒	クリアターン細粒剤F		4~5 kg	—	一年生雑草 (雑草発生前)
液	クリアターン乳剤		500~700 ml	70~100 ㍺	
粒	リベレーター-G	播種後~ 麦2葉期まで	4~5 kg	—	一年生雑草 (雑草発生前~ イネ科雑草 1葉期まで)
液	リベレーター フロアブル	播種後~ 麦3葉期まで	60~80 ml	100 ㍺	

- ・除草効果を高めるため、耕起時の碎土はできるだけ細かくしておく。
- ・播種直後の土が湿った状態で散布すると効果が高い。
- ・土壌が極端に乾燥している場合、液剤散布では、希釈水量を多めにする。
- ・散布直後に雨が予想される場合は、薬害回避のため降雨後に散布する。

排水溝の補修

- ・播種作業で排水溝が埋まる場合が多いので、必ず排水溝の補修を行い、円滑に排水ができるようにしておく。



特に降雨後にチェックしましょう。

大麦栽培の作業の流れ

